

プログラム

我が県、ふくしまにおいては東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故により大きな風評被害を受け、地域の人々をはじめ多くの国民が食の安全・安心に懸念と心配を抱えています。風評被害は、地域の情報発信の少なさにも一因があり、これを払拭することが緊急の課題となっています。

安全で信頼される農産物を消費していただくためには、なによりも農産物の正確な情報を生産から流通、そして消費にいたるまで迅速に提供し、その安全を保証することが必要です。

農産物の生産に関わる農家、流通を支える企業、農業を支援する行政と大学研究機関、そして安全な食に関心を持つ市民がともに集い、3.11以降に実施してきたプロジェクトの取り組みの内容と研究成果について紹介し、食の安全と信頼への率直な思いを交換して、今後の我が県の持続的農業と信頼の再構築について考えます。

13:30-13:40 あいさつ

「ご挨拶」 副学長(研究担当)

「研究プロジェクトの概要について」 小沢喜仁教授

13:40-14:30 特別講演

「福島第一原子力発電所事故後の福島県立医科大学の対応と放射線の影響」

菅戸文男氏 (福島県立医科大学・教授)

14:30-15:20 成果報告

「ふくしまの放射線レベルの現状と土壌への影響について」

難波謙二准教授

「食品の流通段階における放射能測定の方法とその結果について(まとめ)」

鈴木康雅氏 ((株)いちい)

15:30-17:00 パネルディスカッション「ふくしまの安全でおいしい食を考える」

*食の安全に関わる取り組みを紹介しつつ、お互いの本音を交換し、
福島の食の安全をともに信頼し支える必要性を確認する。*

コーディネーター: 西川和明教授

パネラー:

(基礎GAPを取り入れ、食を支える農業生産者)

松川正夫氏 (須賀川産直センター会長, 農業生産者)

(果物の販売促進をはかる農業経営)

片平新一氏 (福島市観光農園協会会長)

(消費者とつながる流通企業)

伊藤信弘氏 ((株)いちい様)

(農業再生のための、生産・流通のスマートモデル化)

幕田武広氏 (マクタアメニティ(株))

(ふくしまの地域に暮らす消費者)

氏家京子氏 (福島市立岳陽中学校PTA)

17:00 閉会の言葉、終了(予定)

問合せ先: 福島大学 食の安全・農業再生プロジェクト(ふくしまの元気な農業!“F to C”プロジェクト)

小沢喜仁(福島大学共生システム理工学類・教授)

〒960-1296 福島市金谷川1番地 電話:024-548-8204 電子メール:p145@ipc.fukushima-u.ac.jp